

織姫は機織りの仕事をしていて働き者。彦星は牛の世話をしているしっかり者でした。やがて2人は結婚しました。すると、今まで働き者だった2人は急に遊んで暮らすようになり、全く働かなくなってしまいました。怒った神様は、2人の間に天の川を作って離してしまいました。悲しみにくれた2人は泣き続けました。それを見た神様は、前のようにまじめに働いたら、1年に1度だけ、2人を会わせてくれると約束しました。それから2人は心を入れ替えて一生懸命働くようになったのです。そして、2人は年に1度だけ天の川を渡って会うことが許されるようになり、その日が七夕とされるようになりました。

昨日は七夕、あいにくの空模様で天の川を見ることができませんでしたが、織姫と彦星は会うことができたのでしょうか。

自分の生き方を考える

中学生は、自分の進むべき道を定め、第1歩を踏み出す準備をしていきます。本校では、高い志をもち、未来に向かって挑戦し続ける生徒を育成するために様々な支援をしています。その一部を紹介します。

◇地域を学ぶ1年生

1年生は、自分が住んでいる山口市について学習を深めることにより、郷土に誇りと愛着をもち、地域に貢献できる人物となることを目的に、地域学習に取り組んでいます。今年度はコロナウイルス感染の影響で、当初計画していた地域の方々と関わる学習を進めていくことは難しい状況ですが、限られた学習形態の中で効果を上げることができるよう、準備を進めています。

また、学習の成果を紙面にまとめることにより、「調べる力」「まとめる力」を身に付けていきます。

◇社会人としてのマナーを学ぶ2年生

2年生は、社会の一員としての自覚をもち、勤労について考えることを目的に学習を進めています。6月29日には、菅公学生服の社員の方を講師としてお招きし、「職場で働くための心構え・マナー講座」と「制服の着こなし講座」を開催しました。



◇進路選択をする3年生

義務教育最終年の3年生。自分の進路希望を叶えるための第1歩となる進路選択が迫っています。多くの生徒が進路選択の1つとしている高校選択については、例年通りのオープンスクールができない中ですが、高校側も魅力をアピールしようと様々な対策を講じ、自校をPRしています。本校では、1階ワークスペースに、進路コーナーを設け、情報を提供しています。



社会生活に必要な知識を確認する定期テスト

新型コロナウイルス感染症による臨時休業により毎年5月に行っている中間テストが中止となったため、今年度の1学期は、期末テストのみの実施となりました。1年生にとっては中学校生活初めてのテストとなり、テストに向けた準備に不安を抱えていることと思いますが、学習委員会が、テスト対策問題を作成するなど、テストに向けた準備を進めています。

学習支援の場「おおすぎ塾」

大杉だより No6などで紹介しました「おおすぎ塾」が7月3日（金）からスタートし、約40名の生徒が参加しました。おおすぎ塾は、地域の方がボランティア講師として中学生に勉強を教える学習会で、7月6日には山口大学の学生16名が講師を務めました。約1時間の学習でしたが、参加した生徒は、疑問点があれば手を挙げて積極的に学習していました。参加した生徒は、「日頃の授業では、質問したくても先生は一人。今日はたくさんの先生がいたので、じっくり教えてもらえてよかった。」と話していました。ご協力いただいた山口大学の学生さん、大変ありがとうございました。

このおおすぎ塾は、定期的に関講し、生徒の学習支援に努めていきます。



人とのコミュニケーション第1歩「あいさつ」

「おはようございます!」「こんにちは!」「さようなら!」元気のよい挨拶が学校に広がっています。昨年の学校評価では、課題の一つとしてあげられたあいさつですが、今年になり、生徒の元気なあいさつが聞こえるようになりました。

この良い挨拶は、バドミントン部員を中心に広がりはじめ、今では全校に広がりつつあります。あいさつは、人と人とのコミュニケーションの第1歩です。この良い習慣を校内だけにとどまらず、登下校などに関わる地域の方々にも広がることを期待しています。